

公益財団法人豊橋文化振興財団情報誌

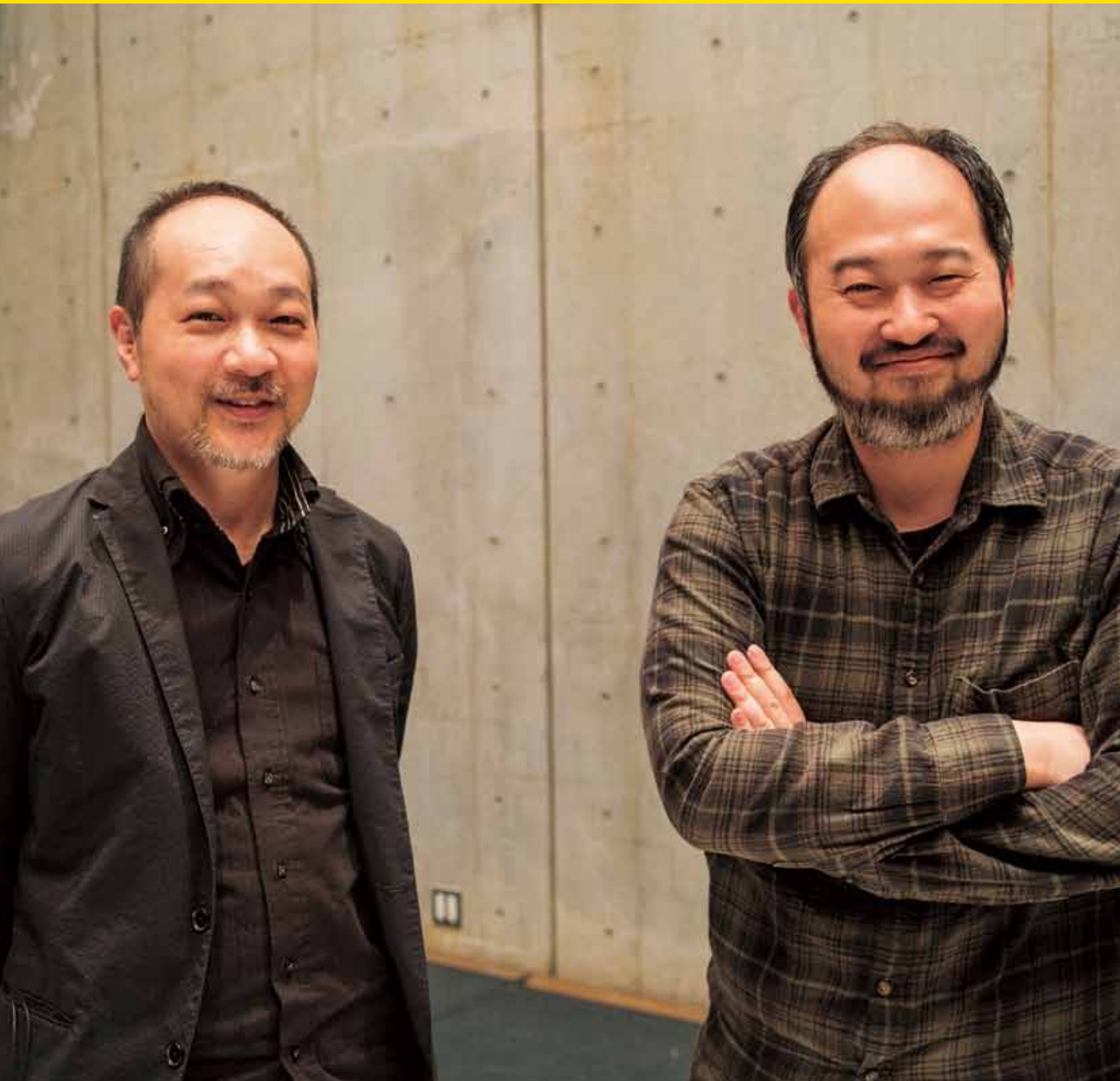
2014年7月－8月

プラット ニュース

vol. 8



TOYOHASHI
ARTS
THEATRE
PLAT



演出家
森新太郎
『ビッグ・フェラー』を語る。



撮影:谷古宇正彦

誰にでも、ちっちゃな幸せがあった。

舞台はアメリカ。登場人物のほとんどは、イギリス(連合王国)から北アイルランドを分離して全アイルランド統一を目指す武装組織IRA(Irish Republican Army=アイルランド共和軍)のメンバー。こう聞くと、ハリソン・フォードとブラッド・ピット共演の映画『デビル』(1997)を思い起こす方もいるかもしれませんが。また、『タイタニック』(1997)では、主人公ローズが3等船室でギネスとアイリッシュダンスに酔いしれるシーンが、アイルランド人のアメリカ移民の歴史を垣間見せていました。ちなみに、ケネディ大統領もクリントン大統領もアイリッシュ・アメリカン、オバマ現大統領も母方の先祖がアイルランド人。移民の多くはイギリス国教会(プロテスタント)の迫害を受けたカトリック教徒たちでした。宗教問題も含め、日本ではあまり馴染みのない歴史ともいえます。そこで、演出家・森新太郎氏に上演にあたっての思いを語っていただきました。

この台本は、今回翻訳をしてくださった小田島恒志さんに紹介されて知るに至りました。とにかく面白いんです。ニューヨークで生活しながら、武器や資金調達でIRAを支援していた人たちなんて、よくそんなシチュエーション思いつくなくて。演出を

やれるのは、とてもラッキーですね。ニューヨークってのがミソなんですよね。たとえばダブリンやベルファストだったら、普通のIRAの話になっちゃうんですけど、主人公のコステロたちはアメリカ人で、だから、故郷のアイルランドと距離がある。そのアメリカは

憎きイギリスと同盟国。一方で、プエルトリコの女性が出てくれば、イスラム過激派の台頭もあり、それからFBIの影も見える。かなり複雑で、それがこの作品の大きな魅力ではありますが、果たしてどこまでお客さんにキッチンと伝えられるのか、僕自身の一番の課題です。いわゆる英国の作家の書く皮肉、アイロニカルなところをどううまく表現できるかという問題もある。言葉の扱い方が難しいんです。ものすごく緊迫した状況で、ユーモアを交えた台詞の応酬があったりする。そのスリリングさがこの作品の「味」でもあるので、大事に取り組んでいこうと思っています。

みんな、必死に生きてきた

この芝居はほんとに人間ドラマがちゃんと描かれているんです。みんな、根っからの

翻訳者・小田島恒志から一言。
**あの正義かこの正義か。
それが問題だ。**

僕は、「森新太郎被害者の会」なんて言っています。台本を理解するのに、こんなに徹底的に付きあわせる演出家っていないだろうなって。

この作品の舞台は1972年から2001年、貿易センタービルの「9.11」までのニューヨーク。もともとアメリカは「善悪二元論」、つまり、世の中は正義か悪か、○か×かだけのように思ってきた。その愚かさが、「9.11」で一気に世界的な認識になったでしょう。この作品は、正義っていうのはやっぱり人それぞれにあるものだよ、○か×かじゃないし、立場によっても、ひとりの人間のなかでも変わるんだよということを見せている。その何が翻訳家泣かせかかというと、僕は、原文で○とも×ともどっちも取れる表現は日本語でもそうしたいと思っていた。でも、台詞を喋るほうは、どっちのつもりで言っているかを理解しないとできないっていうのがあって、そうすると、どんどん翻訳

に齟齬が出てくるのね。一方で、森さんはそれをはっきりさせたがる人なんだけれど、表現はどっちも取れるようにしておく効果があるんだってこともわかってきている。もちろん、最終的にはどっちかの意味になるようにするわけで、お互いにそのバランスを調整しようというか、決定稿に行きつくまでのやりとりは普通の倍はかかるよなっていうことなんです。けっこう難しいのが英語の語順と日本語の語順。英語の語順のまま日本語にすると、とってつけたような倒置法になってしまふことが多く、なるべく避けるようにしている。でも森さんは原文通りの語順に戻したがることが多い。ところが、役者が喋ってみると森さんの考えに「ほんとだ」って納得させられるんですよ、ああ、そのほうが恰好いいや、とか、説得力があるな、とか。そんな調子ですから、台本は、かなり後まで付箋だらけでした。翻訳劇って、よく「文化的背景を知らないからよくわからなかった」って言われちゃうことが多いんですけど、そう思われるのは残念。



翻訳者は何も「わからせたい」と思って訳しているわけではなく、「わかりたい」人はどうぞ歴史や文化の本を読んで下さい、と言いたいです。演劇は生の舞台。「わかる」のではなく、「感じて」欲しい。文化的背景が違う、という前提で(具体的にはわからなくていいから、何か自分の知っている日常とは違う状況の中で)登場人物たちが苦悩し、喜び、怒り、悲しむ様を見て、何かを感じてもらいたい。でも、そのためには演じる側は「わかっている」必要があって、今回、キャスト・スタッフは稽古が始まる随分前から「勉強会」を重ねています。その姿勢に頭が下がります。勉強会を通じて、森さんを始め、皆さんさん質問を浴びせてくれるおかげで、自分の誤読に気付かされて訂正できたところも結構あったし。あ、ばらしちゃった、ここカットをお願いします。(笑)

〔おだしまこうし〕 翻訳家、英文学者。1962年生まれ。早稲田大学大学院博士課程、ロンドン大学大学院修士(MA)課程修了。早稲田大学教授。1996年度湯浅芳子賞受賞。主な翻訳作品に、『コペンハーゲン』(マイケル・フレイン)、『欲望という名の電車』(テネシー・ウィリアムズ)、『ビッグマリオン』(バーナード・ショー)など。このほか、『シェイクスピアについて僕らが知りたさすべのこと』(ビル・ブライソン)、『エミリーへの手紙』(キャムロン・ライト)などがある。



アイルランド気質で明るくやっているけれども、30年という月日の中で、自分が一体何者なのか、何が正しいことなのか、どんどんわからなくなっていく。理想と現実が乖離していく。

コステロは終盤の演説シーンで、「地球の軸が少し傾いていた」って言うんですよ。「私には仕事がある、妻がある、妻は私を愛してくれている、私たちには娘がいる、私は父親だ。それで十分じゃないか!?」ところが地球の軸は、ご存知のように少しずれている。そう、傾いていて、それが私を狂わせる。」と。自分が生まれた場所、国籍や時代や性別も含めて、みんなそういうものの中に放り出されて、ただただ必死に生きてきただけなのっていうある種の物寂しさを感じますね。

でも作者のリチャード・ピーンって人は、きっと優しい人なんだと思います。彼の作品は2年前に『ハーベスト』を演出したのが最初

です。そのときも感じたんですけど、人間がそういった状況の中で揉みくちやにされながらも、この人たちの幸せて何だったんだろうというのを見る眼差しがあって、それが、僕は割と好きって言えば好きで、何かどうしようもない不幸ばかりに目を向けるんじゃないかって、この人たちにもちっちゃなかけがえのない幸せはあったんじゃないかっていう。みんな、自分に幸せがあったってことを、失ってみてはじめて気づくんですけどね。IRAのことを知らなくてもグイグイ引き込まれる。自分の人生と重ね合わせることでできる。そんな舞台にしますから、ぜひご期待ください。

〔もりしんたろう〕 演出家。1976年生まれ。演劇集団円、会員。2006年、マーティン・マクドナー作『ロンサム・ウェスト』で演出デビュー。平成20年度毎日芸術賞演劇部門千田是也賞を受賞。2009年、マーティン・マクドナー作『コネマラの骸骨』の演出で平成21年度文化庁芸術祭賞優秀賞を受賞。2013年6月サトル作『汚れた手』(劇団昴)、10月マーロウ作『エドワード二世』(新国立劇場)を演出し、各誌で絶賛される。両作品で本年2014年2月に発表された第21回読売演劇大賞にて、大賞および最優秀演出家賞を受賞。

チケット発売中

『THE BIG FELLAH
ビッグ・フェラー』

- 作＝リチャード・ピーン
- 翻訳＝小田島恒志 ● 演出＝森新太郎
- 出演＝内野聖陽／浦井健治／明星真由美
町田マリー 黒田大輔 小林勝也／成河
- 日時＝6月28日[土] 14:00開演
29日[日] 14:00開演
- 会場＝PLAT主ホール
- 料金＝[全席指定]S席:7,500円/A席:5,000円

プレ講座

『翻訳家と演出家に聞いてみよう』

翻訳家の小田島恒志さんと演出家の森新太郎さんをお招きしてプレ講座を開催します。チケットの有無を問わず、興味のある方ならどなたでも参加可能です。

- 日時＝6月25日[水] 18:00より
- 会場＝PLATアールスペース
- 出演＝小田島恒志[翻訳家]
森新太郎[演出家]
- 参加費＝無料。先着200名、要事前申込。
申込＝プラットチケットセンター(0532-39-3090)までお問い合わせください。

この夏、主ホールが 子どもたちと創る 2つの世界

8月3日 PLAT 主ホール
こどもとおとなのためのダンスプログラム
コンドルズ『GIGANT—ギガント—』



夏休みまっただ中の8月、PLAT主ホールは、2つの「こどもとおとなのための」プログラムをお贈りします。ひとつは昨年PLATオープンに際して「超弩級ファンファーレ! 祝! 豊橋芸術始動」と、ダイナミックに『グランドスラム』を上演したコンドルズによる『GIGANT—ギガント—』。「デカく行こうぜ灼熱日本! 快進撃の夏を君に!」とのキャッチコピーを見るだけでもワクワクします。もう一つが『暗いところからやってくる』。こちらは、ステージの上にストンと劇場を乗せるステージ・オン・ステージで、いつもは客席から観ている観客も「舞台上の人」となる不思議空間が生まれます。今回は、この2つのステージの仕掛け人たちの対談をお届けします。

コンドルズ

芸術文化プロデューサー

近藤良平 × 中島晴美

よくわからないけど、 面白いことありそう。 親も子も、そんな気持ち で来てほしい。

コンドルズといえば、常識も先入観も「ダンス」というジャンルも何もかも、一気に吹き飛ばす自由な舞台。いやいや、舞台と客席の垣根も超えて、ときには客席に下りてきて観客たちを出演者に早変わりさせてしまいます。観る側の大笑いや驚きの声までもが効果音。さながら遊園地のアトラクションをあまさず堪能する気分です。そんなコンドルズを主宰する近藤良平さんの頭には今、今回上演する『GIGANT—ギガント—』のイメージがどんどん集積しては刺激あっているようです。

**音のからくり、光のからくり。
舞台ができるいろんなこと。**

中島●コンドルズのステージは、人形劇があったり、近藤さんが舞台の端っこでギターを弾いていたり、おもちゃ箱をひっくり返したような、ブロック遊びで積み上げる途中を見せるような勢いを感じます。

近藤●僕たちみんな、昔から人形劇も好きだし楽器も好きだし、集中もするんだけど、一つのことを長時間かけて料理するのが苦手なんです。だから、万遍なくいろんなことをやって、それを良しとしている。僕自身でいえば、ダンスは大事でも、ダンスのプロフェッショナルとは思われたくない。人形劇のプロフェッショナルでもなくて、ただ好きだから一生懸命やる。

中島●2年前、「せたがやこどもプロジェクト」で『赤ずきんちゃん』をベースにした『狼たちの午後』が上演されました。私は、



つい同名の映画を連想して、子ども向けだと思っていたんですよ。

近藤●いや、「子ども向け」とは言っても、あの映画のモチーフも取り入れているし、「子ども向け」としてやっているわけではないんです。舞台の可能性を提供するというか、いろんな形で面白がるようにしたい。だから、親も、なんだかよくわからないけれど面白いことがありそうだなと、それぐらいの気持ちで子どもと来てもらえるのがいい。

『狼たちの午後』では、床面や壁を青、緑、赤など、どんどん色を変えたんですよ。子どもって多分、そういう空間にすごくドキドキする。そして舞台は光のからくり、音のからくり、いろんなからくりがいっぱいできる。子どもからすれば、すごい！ テレビじゃなくて目の前の舞台上で色が変わった！って。魔法だよな。

人間は、見たこともない 巨人の姿にただ驚く。

中島●今回の『GIGANT—ギガント—』は、英語ではジャイアント、巨人。『ガリバー旅行記』がベースですよ。ガリバーって、とくに男性は少年時代に憧れた記憶があって、大人が楽しみにしている。「漂流記」ではなくて「旅行記」なのも、「さあ、行くぞ!」というような、意志の力を感ずます。

近藤●あ、それ、いいヒント。

中島●ただ、あの物語は本当はとても長いんだけど、あまり知られていない。

近藤●ガリバーが小人とされる国もあれ

ば、空飛ぶ鳥も、それから馬の姿をした種族に、日本も出てくるらしい。僕も巨人のところしか知らないし、実は、具体的なことはまだ、そんなに深く考えてもないんですけど、彩の国さいたま芸術劇場で『日本昔ばなしのダンス』をやっている、ここに鬼が出てくるんですよ。鬼は大きいとされているけど、「鬼ってなあに？」みたいなところはあります。

中島●童話の主人公では鬼や巨人って怪物、つまり悪い心を持った悪魔じゃないんです。人間は、自分たちが見たこともない容姿を見るから驚くだけ。鬼は鬼で、仲良くなる手段がわからない。

近藤●またまた、いいヒント。たつた今思ったんだけど、去年、NHKのドキュメンタリー番組でアイスランドに行ったんです。そこで精霊とされているのは、見た目は「化け物」。ただ、たとえ優しくても、巨人がちょっと足の位置を変えるだけで誰かを踏み潰してしまう。くしゃみをすれば、いろんなものが吹き飛ぶ。結果として罪になる。そういう不条理みたいのものもあるし、ギリシャ神話では神だったりもするし。人間でいえば、たとえばサッカーでキーパーをやると、最大限に自分を大きく見せようとして、本当に大きく見える瞬間があったりする。いろいろな要素があって、すごく面白い。

子ども時代はサッカー少年。 思えば、すごくダンス的。

中島●サッカーといえば、小学生時代は南米にいて得意だったと聞いています。

近藤●すごく得意。もともと、日本人学校だったけど、みんな「得意だった」って言いますよ、女の子もみんな。ただ、僕が一人で絵を描くような人ではなくて、舞台をやるのはサッカーの影響が大きい。作戦を練って、メンバーそれぞれの力を活かして攻撃する集団ゲームでしょ。ボールを誰かに渡してそこに走り込む、こうなったらこいつがこう動くっていうイメージを、寝ている間も

ずーっと考えていたわけね。それはつまり、空間を織り込むことで、僕の中ではすごくダンス的なんです。

中島●じゃあ、舞台の構成は、サッカーの作戦のような。

近藤●構成は、だいたいみんなと一緒に呑み屋なんかで作るんですけど、そこが楽しい。といっても、全然緻密じゃなくて。稽古だって、「今日来る」って言ってたメンバーが来ないのは当たり前、という感覚でいい加減。それで無理やり本番をやると盛り上がっちゃうから、「コンドルズはこれでいいんだ」みたいな雰囲気になる。

中島●自由というか、お祭り好き？ せっかく来たんだから楽しい時間を過ごさなきゃ、お客さんにも過ごしてほしいという。南米で育ったことも大きいような。

近藤●確かに。最近、僕の仕事はフラッシュモブが多くなってますよ。フラッシュモブは、街中や何かで、急に音楽を鳴らして100人とか200人が踊りだすものなんですけど、参加者を募集すると、ダンスや芝居にまったく関心がないような人がワークショップに来るんです。当日の飛び入りもあって、終わると、みんな何事もなかったかのように街のなかに消えていく。演じる側と観る側が分かれていない、フラッシュモブの集団と街が同じエネルギーで繋がる。みんなで同調する気持ちよさ、「街ではこう」というようなルールから解放される楽しさがあるんだと思う。アートの体験ですよ。

中島●それ、面白い。アートって、生きるエネルギーの表出だから。『GIGANT—ギガント—』がそれに近いものが体験できるのを楽しみにしています。 撮影:谷古宇正彦

チケット発売中

こどもとおとなのためのダンスプログラム

コンドルズ

『GIGANT—ギガント—』

- 構成・映像・振付＝近藤良平
- 日時＝8月3日[日] 14:00開演
- 会場＝PLAT主ホール
- 料金＝[全席指定] 一般:4,000円
学生:2,000円[24歳以下]
子ども:1,000円[4歳以上高校生以下]

[こんどう・りょうへい] 振付家・ダンサー。学ラン姿でダンス、映像、コントなどを展開するダンス・カンパニー、コンドルズ主宰。NHK「サラリーマンNEO」、「からだであそぼ」などに振演出演。同「てっばん」オープニングの振付も担当。第四回朝日舞台芸術賞寺山修司賞受賞。いくつかの大学で非常勤講師としてダンスの指導にあたる。収容人数5万人の味の素スタジアムで開催された東京スポーツ国体2013開会式典演技総演出担当。南米育ち。愛犬家。
<http://www.condors.jp/>





8月16日—17日 PLAT 主ホール舞台上特設舞台
こどもとおとなのためのお芝居
『暗いところからやってくる』

前川知大^[作] × 小川絵梨子^[演出]

作品を完成させてくれるのは 劇場に来る子どもたち

演劇賞の受賞歴も多く、日本の現代演劇のホープとも言うべき多彩な活動を展開している劇作家・演出家の前川知大と演出家・小川絵梨子。前川が主宰する劇団・イキウメ公演『ミッション』（2012）を小川が演出した同年夏、二人の再びのタッグから生まれたのが「こどもとおとなのためのお芝居『暗いところからやってくる』」です。俳優陣とスタッフとの息の合ったコンビネーションから生まれたこの作品は、文字通り世代を越えた観客を沸きに沸かせ、2年ぶりの再演となる今夏、国内8劇場を回るツアーを敢行。お二人にとって初めてだった「こどもたちのための芝居づくり」から、再演に向けての想いまでをお話いただきました。

分からないところがあると 子どもの記憶に後々まで残る

前川●子どもの鑑賞を前提にした芝居づくりは初めてでしたが、いつもと違う準備や発想を大きく変えるようなことはありませんでした。初演の製作発表でも言ったのですが、自分の子どもの頃を思い出しても、「少しぐらい分からないところがあるもののほうが、後々まで記憶に残る」というような経験がいくつもあったので、あまり手取り足取り親切にし過ぎないほうが集中して観てもらえるのではないかと、思ったんです。ただ、自分の作風が少々理屈

っぽいという自覚はあったので（笑）、ストーリー展開などはなるべくシンプルに、伏線を敷いたら、それを展開させるまでの時間はいつもより短めに、といった心配りはしましたけれど。

小川●私も、特別気負うようなことはなくて。どちらかと言えばいつもはできない、演劇としてはダイレクトな演出、仕掛けらしい仕掛けなどを演出として、楽しみながら使えるのではないかと、という期待感が大きかったですね。

前川●戯曲執筆も、普段なら俳優やスタッフさんなどに展開を聞いてもらうなど、練り上げるために他の人の意見も随分聞く

のですが、この作品は誰にも相談しないまま、ほぼ一気に書き上げたようなもの。主人公の輝夫には自分の子ども時代の実際の経験もかなり反映させていて、今年1月に僕の地元、新潟県柏崎市で舞台を収録した映像の上映会をした時には、母や妹に何か突っ込まれるのではないかとハラハラしながら見ていました（笑）。

小川●私、そんなに前川さんの実体験が反映されていたなんて、今知りました（笑）。

前川●普段は、個人的な体験を作品に交えることはありませんから。でも、自分の体験を加えたことで、作品が子どもやおとなという年齢に左右されないものになったところもあると思っています。輝夫が祖母の家に対して漠然とした不安や恐怖を感じるの、彼の中にある「罪悪感」のため。無意識下に潜む罪悪感から他の人には感じないものを感じ、目に見えないはずのものが形を変えて現れ、それに怯えるというのはホラーの常道ですから。

小川●確かにそうですね。そういうスタンダードな戯曲だからこそ、俳優やスタッフさん、もちろん前川さんにも何度も稽古場に来ていただいて、色々なアイデアを出し合いながらつくられた。それが私にとっては、とても刺激的で楽しい時間でした。KAAT（神奈川芸術劇場）のスタッフさんたちは常にフル稼働で細かなところまで対応してくださり、本当に良くしていただいて。



撮影:田中亜紀



この夏、主ホールが 子どもたちと創る 2つの世界

自分たちには面白くてきている実感があつたのですが、最終段階で「子どもたちは喜んでくれるのか?」と不安になったんです。初めてのことなので彼らの反応は未知数。それで、初日直前にプレビューとして、20組超の親子のお客様に観ていただくことにした。スタッフさんには無理していただいたんですが、あの反応に本当に救われました。前川●そうそう、予想以上にたくさん笑ってくれたし、集中するところはギュッと観てくれて。

子どもたちのリアクションが そのまま舞台の一部となる

小川●「暗いところの世界の人たちは、輝夫君にしか見えていない」というルールもすぐ飲み込んで、輝夫のちょっとしたピクつきも面白がってくれましたものね。でも、終演後に感想を聞くと、プロジェクターで投影していた「影の位置がズレてる!」とか鋭いツッコミもくれて、慌てて直したり(笑)。前川●よく観てるんだ、と感心したり安心したりさせられました。

小川●本番になっても、子どもたちが劇場の空気を作っているのがはっきりと分かるんです。おとなより先に笑ったり怖がったり、時には「怖くないもん!」なんて声に出す子もいて、そういう素直な感情表現におとなも釣られるようにお芝居の世界に引き込まれていく。子どもたちの存在が、この作品を完成させてくれた、と痛感しました。前川●舞台を囲む、対面型の座席にしたのも良かったよね。特に前列には子どもたちがいて、向き合う客席からは、その子どもたちのリアクションが作品の一部として目に入るようになっている。だから、子どもたちのダイレクトな反応が、作品にも強く働きかけたんだと思います。

小川●あと、私個人としては、この作品の演出には普段はやりたくてもできなかった、少しノスタルジックな演劇らしい仕掛け、とでも言えがいいんでしょうか。見えないものの気配を表現するための光と影のコントラストの出し方、カーテンを揺らす風などシンプルでストレートな手法を、緻密に計算して使う、というようなことが色々と試せたんです。それは美術や照明、音響の方の協力あつてのことなんです。演劇は本

来、こんな風に素直に楽しんでつくっていいんだ」というようなことに、改めて気づけたのも個人的な収穫です。結果、普段は私の演出する舞台を「長い、暗い」と文句ばかり言う私の家族にも「これを越える作品はない」とまで言ってもらえましたから(笑)。前川●初めて稽古場に行ったときは、小川さんがあまりにいつも通りに緻密に演出していて、「子ども向け、全然意識していないじゃん……」と、自分のことを棚に上げて正直ビビったんですが(笑)、子どもに媚びないつくり方で正解だった。だからこそ、だれより正直でシビアな子どもたち、という観客が味方になってくれたんだと思います。今回ツアーで中部、関西、九州など色々な地域へ作品を持っていきますが、どの劇場でも必ず子どもたちがいる状態で作品を観て欲しいですね。

小川●本当に、この作品にとって子どもたちの存在はマスト・アイテム。より良く、楽しく観ていただくためにも、おとなの方たちには是非、子どもたちと一緒に来場していただきたいです。

前川●再演もキャストとスタッフ、全員が同じメンバー。だからこそできる進化と深化をめざしますので、初演をご覧になった方にもきっとまた、別の楽しさを見つけていただけたらと思います。 [テキスト=尾上そら]

〔まえかわ・ともひろ〕 1974年生まれ。新潟県出身。劇団イキウメ(2003年結成)を主宰し、活動の拠点とする。身近な生活と隣り合わせに現れる異界、日常の裏側に潜むセンス・オブ・ワンダーを描く。2012年「太陽」の脚本で第63回読売文学賞戯曲賞、「奇っ怪其ノ式」「太陽」の演出で、第19回読売演劇大賞で大賞、最優秀演出家賞を受賞。



〔おがわ・えりこ〕 翻訳・演出。1978年、東京都生まれ。2004年アクターズスタジオ大学院演出部卒業。04~05年リンカーンセンター演出家研修所研修生。06~07年平成17年度文化新進芸術家海外派遣制度研修生。10年、サム・シェパード作『今は亡きヘンリー・モス』(CATプロデュース/ジェイクリッパ)で小田島雄志・翻訳戯曲賞受賞。12年、『12人-奇跡の物語-』(オフィスコトーン)、『夜の来訪者』(響人)、『プライド』(tpt)で第19回読売演劇大賞 杉村春子賞受賞。14年には第48回伊国屋演劇賞個人賞、第16回千田是也賞、第21回読売演劇大賞優秀演出家賞を受賞。今もっとも注目を集める演出家の一人。



平成26年度公共ホール演劇ネットワーク事業 こどもとおとなのためのお芝居

『暗いところからやってくる』

- 作=前川知大 ● 演出=小川絵梨子
- 日時=8月16日[土]/17日[日]
- 両日ともに11:00開演・15:00開演
- 会場=PLAT主ホール舞台上特設舞台
- 料金=[日時指定・全席自由・整理番号付き]
大人:3,000円/24歳以下:1,500円
中・高校生:1,000円/小学生:500円
- チケット販売=会員先行6月21日[土]
一般発売6月28日[土]

夏休み・親子で 共有するアート体験 第一弾

アートスペースが贈る本格的室内楽

ママ、ヴァイオリン上手

『戸田弥生リサイタル』

タイトルの「ママ、ヴァイオリン上手」は、ヴァイオリニスト・戸田弥生さんの練習を聴いていたお子さんが突然発した言葉です。“よそゆき”ではない、くつろいだ時間と空間のなかで楽しむ音楽は、大人の心も子どもの心も自由に解き放つアート体験。その体験を親子で共有したら、きっと今まで気づかなかった互いの心に出会うはず—そんな思いを込めて、夏休みの入り口にお贈りするひとときです。クラシックは苦手という大人も気後れ不要、もちろん知識も不要。ただただ感じていただければ幸いです。



©Kinoshita Akira

チケット発売中

- 日時=7月19日[土]14:00開演
- 会場=PLATアートスペース
- 料金=[全席指定]一般:3,000円
子ども:500円[4歳以上小学生以下]

6/28 SAT — 6/29 SUN **好評発売中**

『THE BIG FELLAH ビッグ・フェラー』

- 作＝リチャード・ピーン ●翻訳＝小田島恒志
- 演出＝森新太郎
- 出演＝内野聖陽／浦井健治／明星真由美 町田マリー
黒田大輔 小林勝也／成河
- 日時＝6月28日[土] 14:00開演／29日[日] 14:00開演
- 会場＝PLAT主ホール
- 料金＝[全席指定] S席:7,500円/A席:5,000円

7/12 SAT — 7/13 SUN **PICK UP!**

KUNIO11

『ハムレット』

京都を拠点に活動している演出家で舞台美術家の杉原邦生がシェイクスピア四大悲劇の『ハムレット』を、新たに構成された新訳台本にて上演いたします。

- 作＝W・シェイクスピア
- 翻訳＝桑山智成
- 演出・美術＝杉原邦生
- 出演＝内田淳子／菊沢将憲
箱田暁史[てがみ座]／福原 冠
岡野康弘[Mrs.fictions] 他
- 日時＝7月12日[土] 14:00開演
13日[日] 14:00開演
※7月12日[土] 14:00終演後杉原邦生ほかによるアフタートークあり。
- 会場＝PLATアートスペース
- 料金＝[全席指定]
一般:3,000円 他



僕が演出をするうえで一番の信念に置いていることは、古典演劇作品のカッコよさ、面白さを伝えたい、という思いです。今回の『ハムレット』はコンパクトでスピーディーな展開も見どころの一つ。 杉原邦生

7/19 SAT **好評発売中**

ママ、ヴァイオリン上手『戸田弥生リサイタル』

- 親子ではじめてのヴァイオリン・コンサート♪
- 出演＝戸田弥生[ヴァイオリン]／林 達也[ピアノ]
 - 日時＝7月19日[土] 14:00開演 ●会場＝PLATアートスペース
 - 料金＝[全席指定] 一般:3,000円
子ども:500円[4歳以上小学生以下]

チケットの
購入・お問合せ

プラットチケットセンター[会員先行・一般発売]
●Web＝http://toyohashi-at.jp
ホームページから24時間いつでも予約可能です。※プラットフレンズへの登録が必要です。
●Tel＝0532(39)3090
●窓口＝穂の国とよはし芸術劇場 1F
Tickets & Informationカウンター

受付時間[Tel・窓口]
10:00～19:00
(休館日をのぞく)

U24・高校生以下
割引のご案内

若い人にこそ生の舞台を楽しんでもらいたいから、ほぼすべての豊橋文化振興財団主催公演に割引料金を設定しています。

- 料金＝U24 [24歳以下対象]:公演ごとに指定する席種の半額
高校生以下:一律1,000円
- 購入方法＝各公演の一般発売初日から窓口にて取扱い。
※一部公演により発売開始日や発売方法が異なります。
- その他＝本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。
座席の指定はできません。要・入場時身分証明書提示。

7/20 SUN **当日券あり**
前売予定枚数終了

松竹大歌舞伎

『中村歌昇 改め 三代目中村又五郎襲名披露
中村種太郎 改め 四代目中村歌昇襲名披露』

- 出演＝中村吉右衛門／中村又五郎／中村歌昇 他
- 日時＝7月20日[日] 12:30開演・17:00開演 ●会場＝PLAT主ホール

8/3 SUN **好評発売中**

こどもとおとなのためのダンスプログラム

コンドルズ『GIGANT—ギガント—』

- 構成・映像・振付＝近藤良平 ●出演＝コンドルズ
- 日時＝8月3日[日] 14:00開演 ●会場＝PLAT主ホール
- 料金＝[全席指定] 一般:4,000円/学生:2,000円[24歳以下]
子ども:1,000円[4歳以上高校生以下]

8/16 SAT — 8/17 SUN

会員先行＝6月21日[土] 一般発売＝6月28日[土]

平成26年度公共ホール演劇ネットワーク事業

こどもとおとなのためのお芝居

『暗いところからやってくる』

- 作＝前川知大 ●演出＝小川絵梨子
- 日時＝8月16日[土] 11:00開演・15:00開演
17日[日] 11:00開演・15:00開演
- 会場＝PLAT主ホール舞台上特設舞台
- 料金＝[日時指定・全席自由・整理番号付き] 大人:3,000円
24歳以下:1,500円/中・高校生:1,000円/小学生:500円

受付開始＝6月29日[日]

『暗いところからやってくる』ワークショップ

舞台セット上で出演者によるワークショップを開催します。
お芝居を体験してみたり、作品の見どころのヒントをご紹介します。

- 日時＝8月15日[金] 15:00～16:00 ●参加料＝無料
- 定員＝20名[先着順] ●対象＝公演チケットお持ちの小学校1年生～6年生
- 申込方法＝6月29日[日] 10:00からプラットチケットセンター
0532(39)3090にて受付。

受付開始＝6月29日[日]

『暗いところからやってくる』劇場ツアー

- 舞台セットが組まれている主ホールを中心とした劇場ツアーを実施します。
- 日時＝8月16日[土] 17:00 ●参加料＝500円
 - 定員＝20名[先着順] ●対象＝どなたでも
 - 申込方法＝6月29日[日] 10:00からプラットチケットセンター
0532(39)3090にて受付。

8/24 SUN — 8/25 MON

ミュージカル『王様と私』

- 作曲=リチャード・ロジャース
- 作=オスカー・ハマースタインII ● 演出=山田和也
- 出演=松平 健/紫吹 淳/はいだしょうこ 他
- 日時=8月24日[日] 12:00開演・17:00開演/25日[月] 13:00開演
- 会場=PLAT主ホール
- 料金=[全席指定]一般:3,500円/ユースチケット:2,500円[24歳以下]

前売予定枚数終了。当日券の販売に関してはお問い合わせください。

9/14 SUN — 9/15 MON

会員先行=7月5日[土] 一般発売=7月12日[土]

白石加代子『百物語』 第三十二夜 第九十九話ファイナル
1992年から始まった『百物語』シリーズが本公演でついにファイナルをむかえます。

- 構成・演出=鴨下信一 ● 出演=白石加代子
- プログラム=三島由紀夫『橋づくし』/泉 鏡花『天守物語』
- 日時=9月14日[日] 18:00開演/15日[月・祝] 15:00開演
- 会場=PLAT主ホール ● 料金=[全席指定]一般:4,000円

9/27 SAT — 9/28 SUN

ライフポートとよはし

開館20周年記念式典 & コンサート

朝から晩まで音楽漬けの2日間! ライフポートとよはし開館20周年を記念して市内で活動する音楽家が集います。

- 日時=9月27日[土] 10:00—20:30/28日[日] 11:00—18:00
- 会場=ライフポートとよはし ● 料金=入場無料

10/1 WED 12/14 SUN

会員先行[両公演とも]=6月15日[日] 一般発売=6月22日[日]

ライフポートとよはし開館20周年記念コンサート

佐藤美枝子 & 錦織 健
『ドニゼッティの愛の世界』

- 出演=佐藤美枝子[ソプラノ]/錦織 健[テノール]
- 日時=10月1日[水] 18:30開演

仲道郁代 & 横山幸雄 ピアノ・デュオ

- 出演=仲道郁代/横山幸雄
- 日時=12月14日[日] 16:00開演
- 料金=[全席指定] 2公演セット券[S席]:7,000円
S席:4,000円/A席:3,000円
ユースチケット[24歳以下] S席:2,000円・A席:1,500円
- 会場=ライフポートとよはし コンサートホール

10/4 SAT — 10/5 SUN

会員先行=7月19日[土] 一般発売=7月26日[土]

葛河思潮社『背信』

- 作=ハロルド・ピンター ● 翻訳=喜志哲雄
- 演出=長塚圭史 ● 出演=松雪泰子/田中哲司/長塚圭史
- 日時=10月4日[土] 19:00開演/5日[日] 14:00開演
- 会場=PLAT アートスペース
- 料金=[全席指定]一般:6,000円 他

10/16 THU — 10/17 FRI

会員先行=8月2日[土] 一般発売=8月10日[日]

とよはし演劇工房『世界は嘘で出来ている』

- 作・演出=田村孝裕[ONEOR8]
- 出演=甲本雅裕/矢部太郎/古屋治男 他
- 日時=10月16日[木] 19:00開演/17日[金] 14:00開演・19:00開演
※各公演終演後にアフタートークあり。(16日ゲスト:平田 満)
- 会場=PLATアートスペース
- 料金=[全席指定]一般:3,600円

10/29 WED

会員先行=8月9日[土] 一般発売=8月24日[日]

二兎社『鷗外の怪談』

- 作・演出=永井 愛
- 出演=金田明夫/水崎綾女/内田朝陽/若松武史 他
- 日時=10月29日[水] 18:00開演 ● 会場=PLAT主ホール
- 料金=[全席指定] S席:5,500円
1階バルコニー一席:4,500円/A席:4,000円

受付開始=6月23日[月]

グロトリアンを弾いてみよう!

グロトリアンピアノの響きを体験できる機会を設けました。大切に扱ってくれる方ならお子様でもかまいません。

- 日時=7月8日[火]・9日[水] 各日10:00—21:00
- 会場=PLAT創造活動室A ● 参加料=1時間あたり1,000円
- 対象=ピアノ演奏ができる方
- 募集人数=毎時00分から1時間単位で最大2時間まで
- 申込方法=プラットチケットセンター

電話のみ Tel:0532(39)3090

※今後も随時開催してまいります。日程等は本誌や劇場HPなどでご案内いたします。

受付開始=6月23日[月]

PLAT劇場ツアー

KUNIO11『ハムレット』の舞台裏を中心にご案内します。階段の上り下りがありますので動きやすい服装・靴でご参加下さい。

- 日時=7月12日[土] 18:30 ● 会場=PLATアートスペース 他
- 参加料=500円 ● 定員=20名[先着順] ● 対象=どなたでも
- 申込方法=プラットチケットセンター

電話のみ Tel:0532(39)3090

※今後も随時開催してまいります。日程等は本誌や劇場HPなどでご案内いたします。

市民と創るスケッチ群像劇 好評受付中

『話しグルマ』出演者オーディション

愛知県出身で俳優・演出家として活躍する近藤芳正が、一般公募の皆さんと一緒に創るプラットオリジナル演劇公演の出演者オーディションを行います。

- 構成・演出=近藤芳正
- オーディション日時=8月2日[土]・3日[日] 10:00—17:00
- 応募資格=高校生以上[定員30名程度。未経験者OK。]
- ※メインキャストのほか、週末稽古を中心として参加可能な方対象のアンサンブルも募集。
※詳細はプラットまでお問い合わせください。
- 締切=7月8日[火] 17:00
- 応募方法等お問い合わせ=穂の国とよはし芸術劇場PLAT

「話しグルマ」担当 Tel:0532(39)8810

〈公演情報〉

- 公演日時=2015年3月14日[土]・15日[日]
- 会場=PLAT主ホール

5月、瑞々しい音色に満たされて



東三河の若手音楽家育成コンサート
『PLAT enjoy music!』

今秋からPLATが始める新たな試みが「東三河の若手音楽家育成コンサート『PLAT enjoy music!』」。東三河ゆかりの若き音楽家たちに発表の場を、お客さまには気軽に普段着感覚で音楽に包まれるひとときを、との思いから生まれた企画です。そのプレ公演が、5月2日と3日の2日間、若手女性音楽家を迎えて開かれました。それぞれ創造活動室A、アートスペース・ホワイエという開かれた空間がコンサートホールに変身。館内を音楽で満たしてくれました。

ベアトリーチェの物語に想いを馳せる

今回、PLATの気持ちに共感して出演してくれたのは、2つの女性音楽家グループ。1日目は豊橋市内の私立桜丘高等学校音楽科卒業生の竹尾圭代さん、鈴木恵深さん、高岡真貴さん、2日目が、この高岡さんに加え、大瀧夏海さん、小武内茜さんと構成する木管三重奏団「coeur（クール）」です。彼女たちが



- モチーフとして選んだのは、両日にアートスペースで上演された朗読劇『ベアトリーチェ・チェンチの肖像』。暴力的な父親を殺した罪で斬首刑に処せられた主人公・ベアトリーチェの物語に想いを馳せて、それぞれにプログラムに昇華させてくれました。
- 1日目のテーマは、同じような悲劇を生きた女性にまつわる音楽を集めた「悲劇の女性」。「悲劇」とはいえ、本誌7号で「それでもね、彼女が見出す希望ってのはあったんじゃないか」と作・演出の田尾下哲さんも話すように、明るく美しい音楽が中心です。ソプラノにPLATのグロトリアンピアノ、さらにクラリネットが加わって、オペラ・アリアから器楽曲まで盛りだくさんの内容で、一つの世界を生み出しました。
- 2日目は「つらぬいた想い」。ベアトリーチェをして最後まで強く生き抜かせたのは信念ゆえと、そこに着想を得ての組み立てです。グループ名の「coeur」とはフランス語で「心」の意。サクソ、クラリネット、ファゴット

というちょっと変わった編成は新鮮で、木管楽器の柔らかい、表情豊かな音色には、作曲家や音楽にまつわる主人公、そして奏者たちの心が宿っているかのようでした。

開放的なガラス窓が生み出す“出会い”

もう一つ、今回おおいに効果を演出してくれたのが、PLATの特徴である開放的なガラス窓。館内のほとんどの部屋はガラス窓を通して内部を覗けるので、どこからともなく聴こえてくる音色に誘われて歩いていると、創造活動室Aに行き当たる。あるいは、「緑の広場」からアートスペース・ホワイエを覗くとコンサートをやっていて、足を運べば、自然光の光が音楽と絶妙なハーモニーを生み出している。チケットを手にして観客になるのではなく、音楽のほうから私たちを呼び寄せてくれる、そんな空気がPLAT全体を包んだといつてよいでしょう。ふと気がつけば、客席には『ベアトリーチェ・チェンチ』の俳優陣。終演後に、音楽家たちと語り合う場面もありました。とりたてて場を作らなくても演劇と音楽のプロたちが、キャリアを超えて交流する。お客さまとの垣根もない。あらゆるジャンルのアートが呼吸する劇場ならではの豊かな時間にPLAT全体が喜んでいるようでした。



左から鈴木さん[ピアノ]・高岡さん[クラリネット]・竹尾さん[ソプラノ]



左から大瀧さん[サクソ]・小武内さん[ファゴット]・高岡さん

東三河の若手音楽家育成コンサート 『PLAT enjoy music!』

今年11月より、アートスペースにて随時行います。入場料500円(予定)。詳細は、本誌またはホームページにて。

芸術文化アドバイザー

第6回

平田 満のちよこつとエッセイ

「才能とは…」



若い頃、私の師匠とも言えるつかこうへいさんに言われた言葉の中に、「才能とは(人)をどれだけ愛せるかだ」というのがあります。なにげなく耳にした言葉ですが、最近思い出して忘れられないものになりました。お芝居に関していえば、自分の役の人物であれ、相手役であれ、脚本であれ、演出であれ、観客であれ、人間一般であれ、およそそこに愛がなければ何か物足りない、もっと言えばつまらない作品になってしまうでしょう。

逆に言えば多少芝居が下手でも失敗があっても、俳優とか作家のこだわりとか、どこかに強烈に愛を感じると断然好きになってしまふことがあります。


芝居をしていて何かうまくいってないなあというとき、この愛するということを忘れてたりしていることがあります。表現する時に最も大事なこともかもしれません。

自戒の念をこめ、最初の感動の大切さをひしひしと感じます。

<p>白井琢也公認会計士事務所 〒440-0862 愛知県豊橋市向山小池町1-1番地の九 http://www.shirai-cpa.com 電話0532-5712330</p>	<p>本豊川堂 カナルミヤ アピタ 本店 五五二八〇番 支店 五五二八〇番 支店 五五二八〇番</p>	<p>代表取締役 竹尾 誠 株式会社 竹尾建築設計事務所 豊橋事務所 / 豊橋市平川町91-2 〒440-0035 Phone:0532-62-1331(代) Fax:0532-62-1332 浜松事務所 / 浜松市東区流通元町13 〒435-0007 Phone:053-422-3628(代)</p> <p>医療法人 羔羊会 弥生病院 日本医療機能評価機構認定 渡辺のり子(東高2回生) 〒441-8106 豊橋市弥生町字東豊和96 TEL(大代)48-2211</p>	<p>外科・内科・胃腸科・麻酔科・消化器科・呼吸器科 伊藤 藤 文 二 院 豊橋市小池町字原下三五 電話四五五二八三番(代)</p>	<p>看板広告 アラキスタヂオ 豊橋市上伝馬町十六 電話 〇五五八六番</p>	<p>医療法人 慈 豊 会 大島整形外科クリニック 理事長 大島 照夫 院長 大島 毅 東田町井原三九の七(市電赤岩口駅北西) 電話 六二一五五一(一)番(代)</p>	<p>医療法人 赤岩病院 光生会病院 電話 六二一五五番</p>	<p>YMバレエ カンパニー ハートフ 21 8610</p>	<p>有限会社 魚 伊 電話 52-5256</p> <p>本と文具なら 精文館書店 TEL.54-2345</p>
---	---	--	--	---	--	--	---	---

<p>竹内産婦人科 産婦人科 婦人科(不妊治療) 豊橋市新本町23 豊橋 竹内産婦人科 検索Q</p>	<p>水各種販売 / 冷蔵倉庫業 大正冷蔵 本社 豊橋市湊町117 TEL: 0532-52-1161 FAX: 0532-52-8015</p>	<p>山本製粉株式会社 ホンポ なつかしの味 なつかしの味</p>	<p>写楽集団・クラブ KAIHO パートII KOTARU DAIGOLAW NORI-G 法務 NOBU 財務 倫理 MATSUO GUCCHI 環境 整備 TAKEDA 広報 photo</p>	<p>株式会社 谷山建築設計事務所 http://taniyama-archi.com 豊橋市西羽田町一八三</p>	<p>調理と製菓の美しい資格。 豊橋調理製菓専門学校 TEL 五二二八〇九 豊橋市八町通一丁目三二二</p>	<p>グロトリアンピアノ地域特約店 白羽楽器株式会社 電話 0531-46413015</p>
<p>ONOCOM 株式会社オノコム</p>	<p>Gallery 呉服町48 TEL.54-4848</p>	<p>SUBARU スバル東愛知販売(株)</p>	<p>稲荷寺 壺屋弁当部 TEL: 0532-31-1131 FAX: 0532-31-1135</p>			

<p>気まぐれコンサート 事務局 / 0532-62-9259 (小川恵司)</p>	<p>am.10:00~pm.5:00 るる 茶房 甘味処 抹茶・コーヒー あんみつ・豆かてん 中岩田5丁目6の4 TEL.63-0202</p>	<p>呉服 田田中屋 TEL 46132881 FAX 132885</p>	<p>プラスワンの付加価値をお客様に提供いたします。 共和印刷株式会社 豊橋市小池町36番地の1 TEL 46132881 FAX 132885</p>	<p>整形外科・皮膚科・リウマチ科・リハビリテーション科 医療法人 大岩整形外科・皮フ科 院長 大岩 俊久 豊橋市大橋通二丁目二五 電話 五五二二一〇〇</p>	<p>伝統的工芸品豊橋筆 書道用品専門店 高誠堂 豊橋市呉服町四拾四番地 電話 五二一五五一四</p>	<p>創業文政年間 美飯 きく宗 豊橋市新本町40 電話52-5473番</p>	<p>練物 専 家 なりの花でん コラフロント ホテルアークリッシュ1F</p>	<p>豊橋名産 みちくわ</p>
<p>井上皮膚科クリニック ☎ 0532-55-7007 診療時間 月・火・木・金 10:00~13:00 16:00~19:00 土 10:00~14:00 休診日=水・日・祝 愛知県豊橋市向山町字中畑13-1 マイルストーン1F</p>	<p>塩之谷整形外科 院長 塩之谷 昌 副院長 塩之谷 香 豊橋市稲田町開設54 ☎(0532)25-2115(代)</p>							

<p>プラットフォーム募集中 [入会金・年会費無料]</p> <p>特典 1 公演情報をメールでご案内します。 特典 2 インターネットでチケット予約ができます。 特典 3 主催公演のチケットを一般発売に先がけてご予約できます。</p> <p>登録方法 ●WEBで登録 [穂の国とよはし芸術劇場HP] http://toyohashi-at.jp ●携帯で登録 https://piagettii.e-get.jp/online-ticket/de/ ●窓口で登録 穂の国とよはし芸術劇場 Tickets & Information カウンター</p>	<p>チケット購入案内</p> <p>◆プラットフォームセンター [会員先行・一般発売] Web=http://toyohashi-at.jp ※プラットフォームへの登録が必要です。 Tel=0532(39)3090 受付時間 [Tel・窓口] 10:00~19:00 (休館日をのぞく) 窓口=穂の国とよはし芸術劇場1F Tickets & Information カウンター</p> <p>◆その他 [一般発売・公演によって販売所は異なります] チケットぴあ / カルミア2Fサービスセンター ほの国百貨店6Fプレイガイド など</p>
<p>穂の国とよはし芸術劇場 PLAT 〒440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123番地 Tel=0532(39)8810 [代表] http://toyohashi-at.jp 開館時間=9:00~22:00 休館日=第三月曜・祝日の場合は翌日・年末・年始。 豊橋駅 (JR東海道新幹線・東海道本線・名古屋鉄道)、新豊橋駅 (豊橋鉄道渥美線) 直結。豊橋駅南口から徒歩3分。 ※駐車場はありません。公共交通機関、お近くの公共駐車場等をご利用下さい。</p> 	

PLAT CALENDAR

7 JULY

- 4 FRI 第723回 邦楽鑑賞会 豊橋市民文化会館
- 5 SAT—6 SUN D.Y.R school 「ダンス発表会」
Dance de Yuina Le Reve Presents 『STAY GOLD vol.1 ~輝き続ける~』 PLATアートスペース
第35回 小市民寄席 豊橋市公会堂
- 6 SUN 第5回 YMバレーカンパニー発表会 PLAT主ホール
Summer Concert ~癒しのしらべ~ (Cello:杉田智美/Piano&Arpa:吉野則子/Viorin:杉山真名美) PLAT創造活動室A
- 7 MON 池谷薫監督作品『先祖になる』上映会 PLATアートスペース
- 8 TUE 平成26年度 東三河地区幹線道路整備計画に関する説明会 PLATアートスペース
- 8 TUE—10 THU 演劇鑑賞会第243回例会 劇団民藝『八月の鯨』 PLAT主ホール
- 12 SAT—13 SUN KUNIO11 『ハムレット』 PLATアートスペース
- 13 SUN 中部楽器 第38回CMCピアノコンクール本選会 PLAT主ホール
第10回 豊橋技術科学大学武道部演武会 豊橋市民文化会館
- 15 TUE 予防医学フォーラム2014 PLAT主ホール
- 19 SAT ママ、ヴァイオリン上手「戸田弥生リサイタル」 PLATアートスペース
- 20 SUN 松竹大歌舞伎 中村歌昇改め三代目中村又五郎襲名披露 中村種太郎改め四代目中村歌昇襲名披露 PLAT主ホール
- 21 MON 圓空佛 舞う PLAT主ホール
- 23 WED—26 SAT 第5回 豊橋青少年オーケストラキャンプ ライフポートとよはし
- 26 SAT 白井孝子ピアノ教室 ピアノ発表会 PLATアートスペース
- 27 SUN 光松音楽教室「第38回さなぎ会発表会」 PLATアートスペース
- 27 SUN—30 WED 第67回 中部日本高等学校演劇大会 愛知県東三河地区大会 PLAT主ホール
- 28 MON—30 WED クーボウ無次元カプセル展(九十九伸一による劇場インスタレーション) PLATアートスペース
- 29 TUE 九十九太一(TAICHI TSUKUMO)チェロコンサート PLATアートスペース

8 AUGUST

- 1 FRI 気まぐれコンサート番外編、ローズクインテットがおくる音楽の旅 PLATアートスペース
- 2 SAT 豊橋女声コーラス演奏会 豊川市小坂井町文化会館 フロイデンホール
- 3 SUN こどもとおとなのためのダンスプログラム
コンドルズ日本縦断大進撃ツアー 2014『GIGANT—ギガント—』 PLAT主ホール
平成26年度(創流108年)日本壮心流全国剣詩舞道大会 アイプラザ豊橋 大ホール
- 6 WED 第13回 小中学生による芸能フェスティバル PLAT主ホール
- 6 WED—8 FRI 伝統文化こども教室[三味線・日舞] 豊橋文化会館リハーサル室
- 7 THU 劇団うりんこ『ねむるまち』 PLAT創造活動室A
- 8 FRI バレースタジオブリエ第2回おさらい会『My Sweet Variation』 PLAT主ホール
とよはし地球体験学校 ~ガーナの音楽・ダンスを楽しもう!~ PLAT創造活動室A
第724回 邦楽鑑賞会 豊橋市民文化会館
- 16 SAT—17 SUN こどもとおとなのためのお芝居『暗いところからやってくる』 PLAT主ホール舞台上特設舞台
- 17 SUN 豊橋南高校音楽部OB合唱団(うたくらぶ)第29回定期演奏会 Heartful Concert29 PLATアートスペース
- 19 TUE 茶道初心者講座 三の丸会館
- 20 WED ダンボールで動物をつくろう PLAT主ホール
華道初心者講座 三の丸会館
- 20 WED—22 FRI 伝統文化こども教室[三味線・日舞] 豊橋文化会館リハーサル室
- 24 SUN 第16回 東愛知新聞社杯歌謡選手権大会 豊橋市公会堂
- 24 SUN—25 MON ミュージカル『王様と私』 PLAT主ホール
- 26 TUE 茶道初心者講座 三の丸会館
- 27 WED 華道初心者講座 三の丸会館
- 30 SAT サマーコンサート(教室発表会) I部 ピアノ・エレクトーンソロ演奏 II部 「北風と太陽」~音楽と絵のコラボ PLATアートスペース
- 31 SUN 清塚信也ピアノリサイタル PLAT主ホール
海老原 & 小林教室 ピアノ発表会 PLATアートスペース

[表紙写真] 左=小田島恒志(翻訳)、右=森新太郎(演出)。
6月主ホール公演『ビッグ・フェアー』は、2人の出会いから始まった。

企画・発行=公益財団法人豊橋文化振興財団
編集=森 絹江
デザイン=松吉太郎デザイン事務所
写真[表紙]=谷古宇正彦
平成26年6月 発行8号 [隔月発行]

穂の国とよはし芸術劇場

TOYOHASHI ARTS THEATRE
〒440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123番地
Tel 0532(39)8810[代表] <http://toyohashi-at.jp>

